

ベランダバードウォッチ 2023 年夏調査報告

バードリサーチ・日本野鳥の会栃木県支部

今夏は全国的に気温が高く、連日の猛暑に辟易されたのではないかと思います。やっとここに来て初冬期本来の気温に下がり、皆さんも安堵したのではないのでしょうか。気が付けば今年も冬鳥が飛び交う季節になってしまいました。今夏の身近な環境での鳥たちの生息状況はどうだったのでしょうか。以下に、4月から8月までの記録から2023年春から夏の身近な鳥たちの生息状況について報告いたします。特に、今回は外国産鳥類のガビチョウとホンセイインコ、近年わが国における繁殖分布を拡大しているイソヒヨドリ記録地の経年的変化についてスポットを当ててみました。

調査状況

2023年夏の調査は、北海道から九州・沖縄までの67人によって家での調査49か所、家の周りの調査40か所の合計89か所で実施されました。昨年の夏の調査は両調査合わせて65人によって93か所でしたので、参加者数および調査地数とも昨年とほぼ同じでした。なお、過去の調査地数をみると、2021年以前の調査では家の周りの調査のほうが家での調査より多かったのが、昨年からは家での調査のほうが家の周りの調査より調査地数がやや多くなりました。また、繁殖期の家での調査は、5月中旬から7月までに調査地あたり5回の調査を実施しますが、ほぼ毎日のように調査が行なわれている調査地が増えてきました。

地域別では、今繁殖期もどちらの調査とも関東が顕著に多く、家の周りの調査では中部地方や九州地方が多い一方で近畿地方では家の周りより家での調査が多く、四国・中国地方では家の周りの調査はありませんでした(図1)。

記録種および記録状況

今年の繁殖期(調査期間4-8月)の家での調査では合計75種、家の周りの調査では合計103種、両調査合わせて110種が記録されました(付表)。調査期間が4月から始まるため、両調査ともカシラダカやツグミ、タヒバリなどの冬鳥も含まれていました。さらに記録種をみると水辺や干潟に生息するシギ・チドリ類やカモ類も多く記録されました。ベランダバードウォッチは家の周囲に生息する鳥の調査ですが、調査地を設定するにあたっては、日ごろから慣れ親しんだ探鳥地を調査コースに選ばれる方が多いのかもしれませんが。

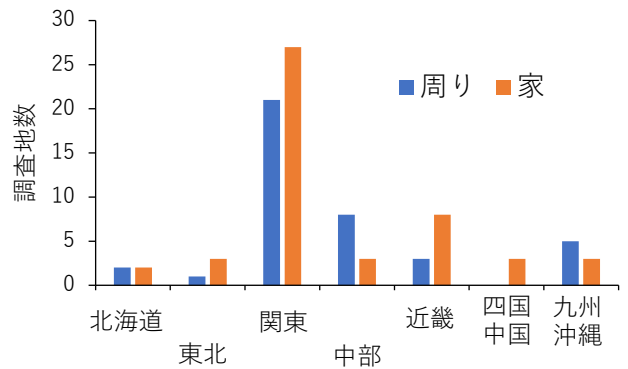


図1. 地域別のベランダバードウォッチの調査地数

表1は、2022年と2023年繁殖期の家での調査および家の周りの調査による記録率上位15種の記録率をまとめたものです。記録率の算出方法は、それぞれの種のすべての記録回数を全調査回数で除した値です。表から今回も各調査の主要な上位種の顔触れや順位は二年および両調査で酷似しています。これら上位種が日本の市街地付近に生息する代表的な鳥の種と言えます。

一方、両年とも調査範囲が狭い家での調査の記録率は、記録率上位の数種を除くと急激に減少しています。家での調査は、家の周りの調査と違いシーズン当たりの調査回数が5回と少ないため、記録の有無に調査地の環境の違いなどが影響するのかもしれませんが。また、近年には家での調査地の中にはほぼ毎日のように調査が行なわれる調査地があります。そのため、調査回数が増えることで記録回数の少ない種ではより顕著に記録率が低くなるのかもしれませんが。

表1. 2022年および2023年夏の調査における上位15種の記録種と記録率

No	家2022		家2023		周り2022		周り2023	
	種名	記録率	種名	記録率	種名	記録率	種名	記録率
1	スズメ	0.78	スズメ	0.74	スズメ	0.89	スズメ	0.86
2	ムクドリ	0.46	ムクドリ	0.37	ヒヨドリ	0.86	ヒヨドリ	0.80
3	ヒヨドリ	0.41	ヒヨドリ	0.37	ハシブトガラス	0.79	キジバト	0.77
4	キジバト	0.32	ハシボソガラス	0.35	キジバト	0.78	ハシブトガラス	0.75
5	ハシブトガラス	0.32	キジバト	0.30	ツバメ	0.71	シジュウカラ	0.72
6	シジュウカラ	0.28	ハシブトガラス	0.30	シジュウカラ	0.70	ツバメ	0.70
7	ハシボソガラス	0.26	シジュウカラ	0.27	ムクドリ	0.64	ムクドリ	0.66
8	ツバメ	0.24	ツバメ	0.21	ハシボソガラス	0.62	ハシボソガラス	0.65
9	ウグイス	0.17	ウグイス	0.20	カワラヒワ	0.48	ドバト	0.55
10	メジロ	0.17	メジロ	0.16	ドバト	0.48	カワラヒワ	0.47
11	ドバト	0.14	コゲラ	0.15	メジロ	0.44	メジロ	0.43
12	コゲラ	0.12	ヤマガラ	0.13	ウグイス	0.40	ハクセキレイ	0.42
13	ガビチョウ	0.11	カワラヒワ	0.13	ハクセキレイ	0.38	ウグイス	0.41
14	カワラヒワ	0.10	ドバト	0.13	オナガ	0.35	オナガ	0.41
15	ヤマガラ	0.10	イソヒヨドリ	0.12	カルガモ	0.30	コゲラ	0.31

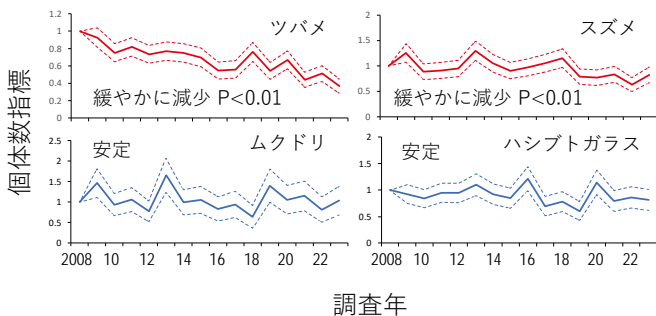


図2. 家での調査による4種の個体数の動向

家での調査による身近な鳥の記録状況の推移

家での調査は、各自の家の庭やベランダから毎年ほぼ同じ範囲で確認できた種の個体数を記録します。本報告では家の調査で得られた記録種のうち、全国的に広く生息するスズメやツバメ、ハシブトガラス、ムクドリの個体数指標の経年的な変化を解析しました。この解析は、5月から7月までに得られた各調査地の最多個体数を用いて、継続した調査地が増えてきた2008年から2023年までの生息状況の変化を解析しました。解析に用いたデータは、16年間に少なくとも8年以上続けられている調査地16か所のそれぞれの種の最多個体数です。解析にはTRIM (Statistics Netherlands) というソフトを用いて計算しました。

図2から、ツバメは2008年を1とするとその個体数指標が次第に右下がりになっていることが見てとれ、有意に減少傾向にあることがわかりました ($p < 0.01$)。同様に、スズメもツバメほど顕著ではないもののやはり全体的に減少傾向にありました ($p < 0.01$)。一方で、ムクドリとハシブトガラスは、年によって個体数指標の変動が大きく、ツバメやスズメほどはっきりした傾向は認められず、解析からは「安定」という結果が得られました。したがって、この2種は現時点では減少も増

加もしていませんでした。

ベランダバードウォッチでわかった生息分布の変化

ベランダバードウォッチは、2005年から始まって早24年が経ちます。そのため、この調査は日本の都市近郊における鳥類の生息分布などの変化を把握できるのではないかと思います。そこで今回は以下に、家での調査と家の周りの調査で得られたイソヒヨドリ、ホンセイインコ、ガビチョウの記録地の分布状況を、便宜的に2005-2008年(以下2000年代)、2013-2015年(以下2010年代)、2020-2023年(以下2020年代)の3期に分けて都道府県単位で記録地数を比較しました。

・イソヒヨドリ

2000年代では、イソヒヨドリは東北地方から九州地方までの合計5か所の調査地で記録されました。2010年代では九州・沖縄地方を除いた4か所で記録されましたが、調査地数は合計6か所と2000年代とあまり著しい変化はありませんでした。ところが、2020年代では関東から九州までの4地方から合計28か所の調査地で記録が得られました。特に、関東地方と中部・近畿地方では記録地が多く各12か所でした(図3)。ベランダバードウォッチの調査地は年によって多少異なるため厳密な比較はできません。しかし、特に2020年代に記録された調査地には、内陸の栃木県のほかに、東京などでは海岸から離れた内陸部からも記録

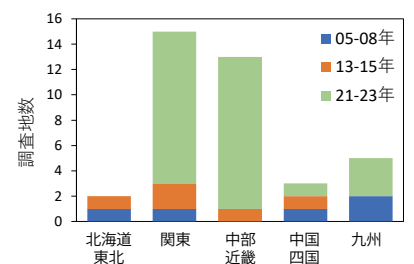


図3. イソヒヨドリの年代別の記録数の変化

されていました。そのため、近年における本種の分布拡大が身近な調査地でも進んでいることがわかりました。

・ガビチョウ

ガビチョウは台湾、中国南部、東南アジア北部などが本来の生息地です。しかし、愛玩用に飼育されていた個体が逃げ出したり故意に放鳥されたりしたことで、近年にわが国でも急速に生息分布が拡大している鳥です。ベランダバードウォッチの記録では、2000年代では合計7か所で記録され、その多くは関東地方の調査地でした（図4）。ところが、2010年代では18か所と増加し、そのうちの16か所は関東地方の調査地でした。さらに、2020年代になると合計25か所で記録され、調査地数は少ないもの東北地方や中部・近畿地方、九州地方からも生息記録が得られました。したがって、ベランダバードウォッチからも本種の生息地が急速に拡大していることが改めて見てとれます。

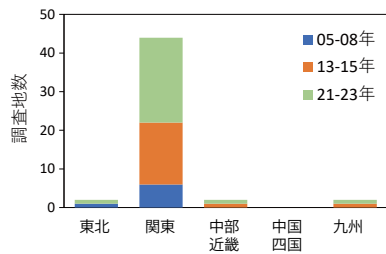


図4. ガビチョウの記録数の変化

・ホンセイインコ

本種は大型のインコ科の鳥で、日本に生息するのは亜種ワカケホンセイインコです。本種は愛玩用に飼育されていたものが逃げ出し増えたものと思われる。2000年代や2010年代では東京都の世田谷区や港区など一部の地域で記録されていましたが、2020年代には調査地数こそ各1か所と少ないものの隣接する神奈川県や埼玉県などでも記録されるようになりました（図5）。このことから、ベランダバードウォッチからも徐々に周辺地域へ分布が拡大していることがわかりました。

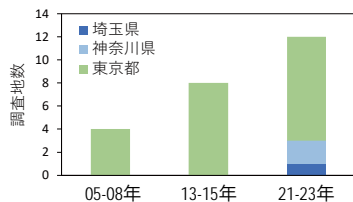


図5. ホンセイインコの記録数の変化

最後に

今夏の調査報告では、従来ほとんどスポットを当ててこなかった外国産鳥類のガビチョウとホンセイインコの記録状況の変化を取り上げてみました。これらの

鳥たちは記録された調査地数が少ないためTRIMなどを用いて解析できないものの、ベランダバードウォッチからも近年その生息地が次第に拡大していることが唆されました。一方で、身近な鳥であるツバメやスズメは継続的に減少傾向にあることがわかりました。家の周囲に生息する鳥たちも継続して観察を続けることで、生息分布や個体数の増減などの生息状況の変化を知ることができます。日本でも繁殖分布調査やモニタリングサイト1000などの調査が実施され、日本に生息する鳥たちの現状がデータとして得られつつあります。しかし、モニタリング1000の調査地はせいぜい里山までで市街地の調査地はほとんどありません。そのため、ベランダバードウォッチは都市環境など身近な環境に生息する鳥たちの変動を知る上で重要と思われます。さて、ベランダバードウォッチで得られたツバメやスズメなどの減少は今後も続くのでしょうか。さらに新たに日本での生息分布を拡大している身近な種は、今後も分布だけでなく繁殖つがい数など個体数レベルでも増加するのでしょうか。これらを明らかにする上でも、今後も引き続きご協力いただければ嬉しい限りです。

この報告書がお手元に届くころには、ベランダバードウォッチ冬の調査の季節となっていることでしょう。引き続き冬の調査にご協力ください。末尾ながら繁殖期の調査にご参加いただきました皆様のご芳名を記してお礼に替えさせていただきます。

赤松あかり、秋元玲子、秋山洋佑、渥美美保、天沼弘勝、五十嵐勉、石原渉、入船憲一、植田睦之、植本富士男、梅田麻理、梅原淳子、江村千佳子、及川茂、大井智弘、大出水幹男、大塚啓子、恩藤淳一、加藤美奈子、加藤ゆき、川畑紘、木本祥太、黒沢令子、小林尹夫、小林俊子、坂口明子、坂田樹美、坂田順子、桜田亜希、笹倉千江花、佐藤貴志、佐藤司、鈴木理央、須田由美、ソウザキマユミ、大門明美、大門聖、田中利彦、高橋佳子、滝澤三郎、武居佳子、竹本怜子、辰巳文吾、辻谷英樹、長嶋宏之、中村浩、成田毅、西川光一、西田好恵、のつす、野村京子、野村英樹、萩原賢一、梁恵美子、菱田清和、古田和生、文成民、三田長久、三藤文彦、宮崎朋子、村井佳彦、村田愛子、安田耕治、吉富真理、吉中康展、吉邨隆資の各氏。

とりまとめ：平野敏明

付表. ベランダバードウォッチ2023年夏の調査記録種一覧

No.	記録種	家	周り	No.	記録種	家	周り	No.	記録種	家	周り
1	キジ	○	○	38	ハチクマ	○		75	メボムシクイ		○
2	オカヨシガモ		○	39	トビ	○	○	76	エゾムシクイ	○	○
3	ヨシガモ		○	40	チュウヒ		○	77	センダイムシクイ	○	○
4	ヒドリガモ		○	41	ツミ	○	○	78	メジロ	○	○
5	マガモ		○	42	オオタカ	○	○	79	オオヨシキリ		○
6	カルガモ	○	○	43	サシバ	○	○	80	セッカ		○
7	ハシビロガモ		○	44	ノスリ		○	81	ムクドリ	○	○
8	コガモ		○	45	フクロウ	○	○	82	シベリアムクドリ	○	
9	カイツブリ		○	46	アオバズク	○	○	83	コムクドリ	○	○
10	キジバト	○	○	47	アカショウビン		○	84	トラツグミ	○	○
11	アオバト		○	48	カワセミ	○	○	85	シロハラ	○	○
12	カワウ	○	○	49	コゲラ	○	○	86	アカハラ	○	○
13	ゴイサギ		○	50	アカゲラ	○	○	87	ツグミ	○	○
14	ササゴイ	○	○	51	アオゲラ	○	○	88	ジョウビタキ		○
15	アオサギ	○	○	52	チョウゲンボウ	○	○	89	イソヒヨドリ	○	○
16	ダイサギ	○	○	53	ハヤブサ	○	○	90	コサメビタキ	○	○
17	チュウサギ		○	54	ヤイロチョウ		○	91	キビタキ	○	○
18	コサギ	○	○	55	サンショウクイ	○	○	92	オオルリ	○	○
19	ヒクイナ		○	56	サンコウチョウ	○	○	93	スズメ	○	○
20	バン		○	57	モズ	○	○	94	キセキレイ	○	○
21	オオバン		○	58	カケス		○	95	ハクセキレイ	○	○
22	ホトギス	○	○	59	オナガ	○	○	96	セグロセキレイ	○	○
23	ツツドリ	○	○	60	ハシボソガラス	○	○	97	タヒバリ		○
24	カッコウ		○	61	ハシブトガラス	○	○	98	カワラヒワ	○	○
25	ハリオアマツバメ		○	62	キクイタダキ		○	99	マヒワ	○	
26	アマツバメ	○	○	63	ハシブトガラ	○	○	100	シメ	○	○
27	ヒメアマツバメ	○		64	ヤマガラ	○	○	101	イカル	○	○
28	ケリ		○	65	ヒガラ	○	○	102	ホオジロ	○	○
29	ハジロコチドリ		○	66	シジュウカラ	○	○	103	カシラダカ		○
30	イカルチドリ	○	○	67	ヒバリ	○	○	104	アオジ	○	○
31	コチドリ	○	○	68	ツバメ	○	○	105	コジュケイ	○	○
32	オオジシギ		○	69	コシアカツバメ	○		106	カワラバト	○	○
33	タシギ		○	70	イワツバメ	○	○	107	ホンセイインコ	○	○
34	キアシシギ		○	71	ヒヨドリ	○	○	108	ガビチョウ		○
35	イソシギ		○	72	ウグイス	○	○	109	ソウシチョウ	○	○
36	オジロトウネン		○	73	エナガ	○	○	110	ハッカチョウ	○	
37	ミサゴ	○		74	オオムシクイ	○	○			75	103